

昭和46年茨城県農産物流通調査

結果の概要について

県統計課農林統計係

この調査は、県内の1,799事業体について、昭和45年1月1日から昭和45年12月31日までの1年間における県内主要農産物15品目について仕入（購入）および出荷（販売）数量等をはあくすることを目的として実施したものである。

この調査の主要品目は、青果物では、きゅうり、はくさい、キャベツ、ねぎ、トマト、いちご、すいか、らつかせい、くり、なし、生しいたけ、鶏卵、および畜産物では、ブロイラー、肉用子牛（生後8カ月未満）、子豚（生後3カ月未満）である。これらは価格が管理されているものではなく、生産者と消費者を結ぶ流通過程のなかで価格が形成されるもので、生産者には販売価格として、消費者には購入価格として反映されるものである。

農産物は、生産単位が零細で生産者の数が多いうえに消費単位も零細分散しており、その両者を結ぶ流通経路も長く、かつ、複雑なのが一般である。ここでは青果物（鶏卵を含む。）を総体的にみた入出荷動向と、その主な品目の入出荷動向を概観してみる。

1. 県内および県外の入出荷動向

県内調査対象事業体における取扱数量は総体で仕入541,325t（42年427,373t）、出荷535,691t（同421,385t）となった。

仕入および出荷数量に占める県内、県外別構成比をみると（図1参照）、県内仕入は95.5%（42年97.3%）を占め、県外からは4.5%（同2.7%）で、42年に比べ、県内仕入は1.8%減少したものの各品目とも仕入全体の85%以上は県内仕入で占めている。特に、県内仕入が多い品目は、「生しいたけ」「すいか」「はくさい」「なし」「くり」「らつかせい」などで、いずれも仕入数量全体の95%以上を占めている。

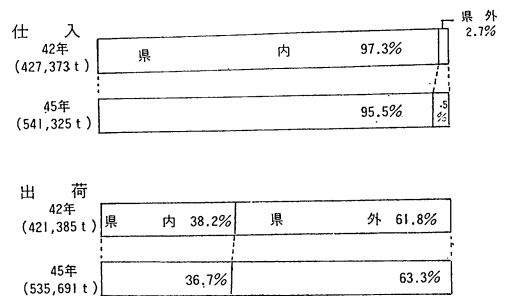
また、県外からの仕入は、全体で4.5%であるが、「鶏卵」「きゅうり」「キャベツ」などでは約1割近くが県外から仕入されている。

出荷は、県内36.7%（42年38.2%）、県外は63.3%（同61.8%）で、42年に比べ県内出荷の構成比が1.5%

減少したのに対して県外への出荷が高くなった。特に、県外向け出荷が多い品目は「生しいたけ」「すいか」「はくさい」「なし」「くり」などで、いずれも出荷数量の6割以上を占めている。

これをみると、本県の青果物は県内仕入が県内出荷を6割近く上まわっており生産県としての性格を示している。県外向け出荷数量の多い地方は大消費地域である東京で、全体の6割を占めている。

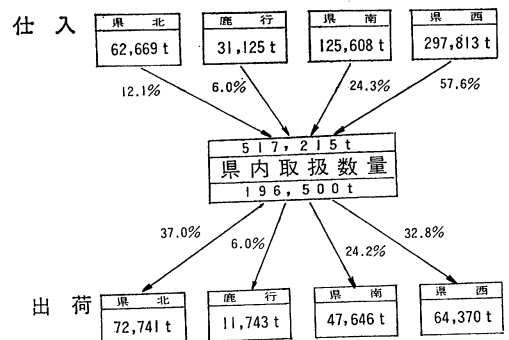
図1 仕入および出荷の県内、県外別構成比（青果物）



2. 県内地域間の入出荷動向

県内の仕入および出荷の地域間流通状況は（図2参照）県内仕入数量（517,215t）の57.6%を占める県西を筆頭に県南24.3%、県北12.1%、鹿行6.0%となつている。

図2 県内地域間流通（青果物）



この地域の仕入が特に多い品目は、県西の「はくさい」

「トマト」「キャベツ」、県南の「くり」「ねぎ」「なし」、県北の「生しいたけ」「鶏卵」「らつかせい」、鹿行の「らつかせい」「いちご」「キャベツ」があげられる。

県内出荷数量（196,500t）に占める構成比は、県北37.0%を筆頭に県西32.8%、県南24.2%、鹿行6.0%となつている。これら地域の出荷が特に多い品目は、県北の「いちご」「ねぎ」「トマト」、県西の「はくさい」「きゆうり」「キャベツ」、県南の「鶏卵」「らつかせい」「くり」、鹿行の「鶏卵」「くり」「らつかせい」である。

また、各地域内の仕入に対する出荷数量をみると、県北が仕入数量よりも出荷数量が上まわつており消費地域としての性格を示している。その他の地域はいずれも逆で仕入数量が上まわつて地域外へ移出がみられ生産地域としての性格を示している。特に県西が顕著である。

3. 業態別入出荷動向

仕入および出荷の業態別取扱数量を構成比でみると（図3参照）、県内仕入は、市場、組合団体、農協の三者により71.8%が取扱われており、特に多い品目は、市場の「キャベツ」「きゆうり」「ねぎ」、組合団体の「トマト」「なし」「すいか」、農協の「生しいたけ」「くり」「いちご」などである。

図3 業態別取扱いの構成比

仕入	
県内 (517,215 t)	市場26.1% 組合団体23.2% 農協22.5% 卸売18.7% その他9.5%
県外 (24,110 t)	卸売64.7% 市場28.7% その他6.6%
出荷	
県内 (196,500 t)	市場49.9% 卸売18.8% 組合団体17.1% その他15.0%
県外 (339,191 t)	農協30.9% 組合団体25.5% 卸売21.3% その他22.3%

また、県外からの仕入は卸売と市場の両業態で大部分取扱われており、卸売の「らつかせい」「鶏卵」「すいか」、市場の「なし」「トマト」「生しいたけ」があげられる。

県内出荷は、市場、卸売、組合団体の業態により県内出荷数量の85%が取扱われており、市場の「生しいたけ」「キャベツ」「きゆうり」、卸売の「らつかせい」「いちご」「くり」、組合団体の「トマト」「はくさい」

「すいか」が特に多い。

また、県外へ出荷の主な業態は、農協、組合団体、卸売の3業態で県外出荷数量の78%を占めており、農協の「生しいたけ」「いちご」「くり」、組合団体の「なし」「ねぎ」「トマト」、卸売の「らつかせい」「キャベツ」「鶏卵」などである。

次に、入出荷取扱数量の多い「はくさい」「すいか」「キャベツ」の3品目についてみると、次のとおりである。

1. はくさい

取扱数量は、仕入189,717t、出荷189,702tで、仕入は仕入数量全体の98%が県内もので、県外からはわずか2%にすぎない。

出荷は、県外向けが取扱数量全体の74%を占めており、そのうち6割は東京へ出荷されている。

県内地域間の入出荷動向では、県西が特に、地域内へ出荷するよりも地域外へ出荷する数量が多く、生産地域としての性格を示しており、反面県北では地域外へ出荷するよりも地域外からの仕入数量が多く消費地域としての性格を示している。

2. すいか

取扱数量は、入出荷80,306tで、仕入は、ほとんどが県内もので、県外からはわずか1%にすぎない。

出荷は、県外向けとして取扱われており、6割近くは、東京へ出荷されている。

県内地域間の入出荷動向は、特に、県西の仕入数量が取扱数量を上まわり、生産地域としての性格を示し、反対に県北は取扱数量が上まわつており、消費地域としての性格を示している。

3. キャベツ

取扱数量は、入出荷43,752tで、仕入は、県内ものが多く仕入数量全体の91%を占め、県外からは9%にすぎない。

出荷は、出荷数量全体の53%が県内へ、県外向けは47%で、県内への出荷依存度がやや高くなつている、県内仕入の半数以上は県外へ出荷され、県外出荷数量全体の約7割は、東京（4割）と北海道（3割）へ出荷されている。

県内地域間の入出荷動向は、前品目の「はくさい」「すいか」と同じである。